

研究に関する情報公開

福島県立医科大学産科婦人科学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2022年5月 福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座 藤森敬也

【研究課題名】

福島県立医科大学附属病院産科における18トリソミー児の分娩介入と予後の検討

【研究期間】

2022年5月～2025年3月

【研究の意義・目的】

18トリソミーは、児の染色体異常において21トリソミーに次いで多くみられる常染色体トリソミーです。18トリソミーの出生児は心奇形をはじめとする多彩な合併症を有し、その生命予後は近年の日本では生後1週間で約30%が死亡し、生後1ヶ月では約55%が死亡すると報告されています。このように予後不良であるため、以前は児の看取りを前提とした医療が主体でしたが、新生児期の集中治療を行うことで生命予後の改善や在宅医療への移行も可能になってきています。また、産科と新生児科、ご家族の話し合いで胎児適応（胎児救命目的）での帝王切開による積極的介入も行われてきています。

しかしながら、18トリソミー児に対して新生児期に積極的治療を行った報告はまだ少なく、積極的治療を行った児の予後や、消極的治療（看取りを主体とした）例と比較検討した報告はわずかです。さらには、積極的な分娩介入の有無を比較検討することで、18トリソミー児の予後を検討した報告はほとんどみられていません。妊娠中に胎児適応での分娩介入を行うか否かを患者家族と十分話し合い、その意思決定を支援していくことは非常に重要と考えています。

本研究においては、電子カルテから抽出された情報を用いて18トリソミーの妊娠例を抽出した上で、胎児適応の帝王切開の希望の有無をはじめ、診断された妊娠週数、合併奇形、新生児予後について検討するものです。

【研究の対象となる方】

2011年1月から2021年12月に、福島県立医科大学附属病院にて18トリソミーの児を妊娠し、分娩に至った妊婦さんおよび産まれた子どもを対象とします。ただし、妊娠22週以降に出産した方に限ります。

【研究の方法】

上記対象者のカルテから、母体年齢、染色体検査の有無、合併奇形、分娩様式（経膈分娩・帝王切開）、分娩週数、児出生体重、児の生存日数分娩などの情報を収集し、18トリソミー児の分娩介入と予後との関連を分析します。

【研究組織】

研究機関：福島県立医科大学

研究責任者	（所属）産科婦人科学講座（氏名）藤森敬也
研究分担者	（所属）地域産婦人科支援講座（氏名）磯上弘貴
研究分担者	（所属）総合周産期母子医療センター母体・胎児部門（氏名）山口明子
研究分担者	（所属）周産期小児地域医療支援講座（氏名）安田 俊
研究分担者	（所属）産科婦人科学講座（氏名）福田冬馬
研究分担者	（所属）産科婦人科学講座（氏名）今泉花梨
研究分担者	（所属）産科婦人科学講座（氏名）三浦秀樹
研究分担者	（所属）産科婦人科学講座（氏名）加藤麻美

【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に関する御質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1
公立大学法人福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座 担当 磯上弘貴
電話:024-547-1290 FAX: 024-548-3878
E-mail: hisogami@fmu.ac.jp

【試料・情報の利用を望まれない場合の連絡先】

試料・情報が当該研究に用いられることについて研究対象者ご本人又は代理人の方に御了承いただけない場合には、研究対象者とはせずに試料・情報の利用、提供をいたしませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも研究対象者ご本人又は代理人の方に不利益が生じることはありません。なお、研究結果が既に医療系雑誌への掲載や学会発表がなされている場合、データを取消すことは困難な場合もあります。

〒960-1295 福島県福島市光が丘1
公立大学法人福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座 担当 磯上弘貴
電話:024-547-1290 FAX: 024-548-3878
E-mail: hisogami@fmu.ac.jp